

第2次日進市子ども読書活動推進計画 具体的施策 進捗状況管理表

全23施策 重点目標10件

○…実施済み △…着手した ▲…検討中 ×…未実施、中止（コロナ）

※施策の実施状況の内、4年度の実施状況は10月現在のもの、今年度中に実施を予定している施策は「実施予定」と記載。

| 大項目 (目標) | 中項目 (分野) | 小項目 (各施策) | 施策の概要 | 具体的実施方法（案） | 直近の年の実施内容 | 施策の実施状況 | | | | |
|------------------------------|-------------|-------------------------------------|--|--|--|---------|-----|-----|-----|-----|
| | | | | | | 4年度 | 5年度 | 6年度 | 7年度 | 8年度 |
| 基本目標1 家庭、地域、学校等における取組 | | | | | | | | | | |
| 1 家庭における子どもの読書活動の推進 | | | | | | | | | | |
| | | (1) 家庭における読み聞かせの充実 | 読み聞かせは子どもの健全な感情や集中力を育む手法のひとつとして定着しており、今後も普及と推進に努める。 | 家庭における親子のふれあいの場として市立図書館の児童コーナーや、「おはなしの部屋」での読み聞かせ等を紹介することで気軽な参加を促す。 | 新型コロナウイルスの影響は続くものの、換気の徹底や人混みの間隔を開ける等の感染予防対策を取った上で定例おはなし会を実施している。 | ○ | | | | |
| | | (2) ブックスタートへの参加促進 | 市保健センターで実施しているブックスタートの内容や周知方法等について、健康課と市立図書館との更なる連携を図る。 | ブックスタートに図書館からスタッフやボランティアを派遣し、赤ちゃん絵本の紹介や読み聞かせ、図書館の紹介などを行う。 | 新型コロナウイルスの影響により実施できず、今年度も、現時点ではコロナの影響で実施できていない。 | × | | | | |
| | | 重点 ブックスタートへの参加率100%達成 | | 何らかの事情により、ブックスタートに参加できなかった市民に、赤ちゃん絵本や図書館における乳幼児読み聞かせなどを紹介する機会を設ける。もしくは通知・訪問する。 | 保健センターが新型コロナウイルスへの対応で多忙であることもあり、現時点では協働での取組みはできていない。 | × | | | | |
| 2 地域における子どもの読書活動の推進 | | | | | | | | | | |
| | | (1) 地域における読み聞かせの充実 | 市内の各保育園や幼稚園、子育て支援センター、児童クラブ、放課後子ども教室等地域における幼児期の子どもに対する読み聞かせの充実を図る。 | 幼児期の子どもは様々な絵本と触れることから読み聞かせを重要な機会として捉え、多様な年代・発達段階に応じた様々な読み聞かせを実施する。 | 少しづつではあるが、出張読み聞かせの依頼は戻りつつある。今後は、保育園や放課後子ども教室以外の場所での出張読み聞かせもできるような働きかけしていく。 | ○ | | | | |
| | | 重点 各地域における読み聞かせの実施 | | 市立図書館が各地域との連絡体制を整え、需要に合った読み聞かせボランティアを派遣し、地域の各施設の読み手と共に読み聞かせを実施する。 | 現状では派遣したボランティアが全て取り仕切っているため、今後現場のスタッフとボランティアが協働できるような体制づくりを支援していく。 | ▲ | | | | |
| | | (2) 多言語本の提供 | 外国籍の家庭をはじめ、日本語が読めない子どもの図書館利用について、必要に応じて地域と連携し、様々な言語による対応に努める。 | 保育園や幼稚園と図書館との連絡体制を整え、相互貸借を含む多言語図書の貸し出しを行う。 | 現時点で、保育園や幼稚園との多言語絵本に関する貸出の話は進んでいない。 | × | | | | |
| 3 学校等における子どもの読書活動の推進 | | | | | | | | | | |
| | | (1) 学校における読み聞かせの充実 | 学校における読み聞かせは、本への興味を持つこと以外に、人の話を集中して聞く、聞いた言葉から物事を想像する等、子どもの発達に効果があるとされており、より一層の充実を図る。 | 小学校では絵本や紙芝居を用いた読み聞かせを、中学校、高等学校ではストーリーテリングやブックトーク等、各年代に対応した手法で読み聞かせを行う。 | 読み聞かせの派遣については先方との調整さえできれば派遣可能であるが、ストーリーテリングやブックトークについてはできる団体が限られるため、今後読み手の育成も含めて支援していく必要がある。 | ▲ | | | | |
| | | 重点 全市立小中学校における読み聞かせの実施 【新規】 | | 図書館スタッフや読み聞かせボランティアを派遣する。 | 放課後子ども教室へのボランティア派遣は実施しているが、学校そのものへの派遣はできていない。 | × | | | | |
| | | (2) ティーンズ向け図書の実施 | 思春期を迎える子どもは心理面の変化から読書離れが進む時期であり、読む本が児童書から一般書へ移行する時期でもあるため、年齢に合わせた図書の収集に努める。 | ヤングアダルトコーナーの蔵書の充実を図るとともに、新刊本の情報を定期的に学校へ配信したりティーンズ自身による選書イベントを開催する。 | 長引くコロナ禍においても、YA新聞の配布や選書体験会は途切れず実施できている。 | ○ | | | | |
| | | (3) 調べ学習の充実 | 市立図書館と学校図書館が連携し、調べ学習に対応できる体制を整える。 | 子どもがより積極的に図書資料等を幅広く活用できるよう、学校図書館と市立図書館が綿密に連絡調整し、授業内容に合わせた資料の提供ができるよう配慮する。 | 学校への配本ルールを明確化するとともに、専任の担当者を指定してもらい連絡調整を行っている。今後は、テジ田に係る機器導入や電子会議システムの実装により、より綿密な連絡調整が可能となる予定。 | ○ | | | | |
| | | (4) 学校団体貸出の利用促進 | 市立図書館から学校への団体貸し出しを促進するため、学校事情を考慮した対応を行う。 | 学校からの様々な要望に対応するため、担当者同士の連絡調整を密にするとともに、学校からの資料要望に対し迅速かつ確実な提供ができる体制を整える。 | 現状では資料の依頼は大まかな分野を指定し、その内容に見合う本を市立図書館で選書し送付する形だが、今後テジ田の実装により市立図書館にある蔵書を直接確認の上、ダイレクトに予約を入れる事ができるようになる。 | △ | | | | |
| | | 重点 学校へのコンテナ便（団体貸出）の整備及び内容の充実 | | 学習指導要領の変更に合わせて、コンテナの内容を更新するとともに情報が古くなった資料については適宜入替を行う。 | 現状順調に運用できているが、今後はコンテナ便の中身を貸出実績に応じてアップデートしていくとともに、学校に向けてさらなる利用の周知を行っていく。 | ○ | | | | |
| | | (5) 読書運動の促進 | 朝読書等の時間を確保し、児童生徒が率先して取り組む環境を作る。 | 各校において、子ども達自身が読書を意識して取り組む時間帯を設ける。 | ほとんどの中学校で朝読書を実施した。 | ○ | | | | |
| | | (6) 読書感想文コンクール、読書感想画コンクール等の参加促進 | 読書感想文・読書感想画を通じて、子ども達が読書に関心を持てるような取り組みを推進する。 | 既存のコンクール参加について、より一層の啓発に努める。 | 読書感想文については、例年どおり課題図書の特設貸し出しを行うとともに夏休み期間中に読書感想文書き方講座を開催している。読書感想画については、現在では図書館での掲示は行っていない。 | △ | | | | |

| 大項目 (目標) | 中項目 (分野) | 小項目 (各施策) | 施策の概要 | 具体的実施方法（案） | 直近の年の実施内容 | 施策の実施状況 | | | | |
|----------------------------|---|--|--|--|---|---------|-----|-----|-----|-----|
| | | | | | | 4年度 | 5年度 | 6年度 | 7年度 | 8年度 |
| 4 | 市立図書館における子どもの読書活動の推進 | (1) 図書館における読み聞かせの充実 | 市立図書館の様々な施設・場所を活用することで、子どもに向けた読み聞かせを実施する。 | 市立図書館での「おはなしの部屋」や視聴覚ホール、また屋外テラスや会議室等従来の実施場所にとらわれない様々な場所での読み聞かせを実施する。 | おはなしの部屋だけに留まらず、屋外テラスでのおはなし会を実施した。また、図書館まつりでは複数のボランティア団体によるおはなし会やレー等も実施している。 | ○ | | | | |
| | | (2) ティーンズ（ヤングアダルト）コーナーの充実とブックリストの活用 | 図書館のティーンズコーナーを今よりもっと充実させ、市内の中高生の読書需要に応える取り組みを進める。 | 特定のテーマや分野別の特設展示を行ったり、面出しやコメント添付など、中高生が入りやすい環境を構築する。 | 例年、選書体験会で選定した図書の紹介文をYAコーナーに設置している。今年度も、9月に開催した選書体験会での成果を展示する予定。 | ○ | | | | |
| | | 重点 ティーンズ向けブックリストの定期刊行 | | 新刊本や10代向けにテーマを絞って選定したブックリストを定期的に各学校に送付することで、ティーンズの貸し出し需要拡大を目指す。 | 中学校、高校へYA壁新聞を年4回定期刊行している。今後は、図書館ホームページにバックナンバーを掲載していきたい。 | ○ | | | | |
| | | 重点 子ども選書体験会の実施 | | 図書館司書が子どもに図書の選び方などを指導し、選書を行う。また児童生徒のコメントを添えるなど、蔵書PRとともに、子ども達が興味を引くように取り組む。 | 子ども選書体験会として毎年開催している。 | ○ | | | | |
| | | (3) 学校の司書教諭等との意見交換の促進 | 学校図書館に携わる職員と市立図書館の職員が意見交換する場を設け、互いの事情を把握する事で団体貸出を含め、双方が効果を上げるように努める。 | 司書教諭・運営補助員等、教育現場において読書活動に携わる教職員と市立図書館職員が意見交換する機会を設ける。 | 今後実装されるデジ田による電子会議システムを活用し、意見交換の機会を創出していく。 | 実施予定 | | | | |
| | | (4) 図書館出前講座の実施 | 図書館から学校へ職員・スタッフを派遣し、市立図書館機能の周知や利用増を図る。 | 図書館から学校等へ職員・スタッフを派遣し、図書館の利用方法を説明したり、疑問点などに応える質疑応答を行う。 | 昨年度、小学校見学の代替事業として市職員が小学校に訪問し講座を実施した。今後は市職員だけでなく、窓口業務委託のスタッフによる出張図書館講座も実施していく。 | ○ | | | | |
| | | 重点 図書館出前講座の実施【新規】 | | 学校へ赴く場合は、対象を児童生徒に限定せず、教職員向けも可とする。 | 現在のところ、学校からの教職員向けの依頼はまだない。 | × | | | | |
| | | (5) ボランティア活動の育成支援 | 読み聞かせを始めとした各団体の活動を充実させるため、市立図書館が基幹となって積極的に支援する。 | 各団体の育成支援や技術向上を図るための研修会や団体同士の相互交流を実施する。 | 全ボランティアを対象としたボランティア交流会を定期的に開催しており、その中で団体同士の横の繋がりを作るための団体交流を開催予定。 | △ | | | | |
| | | 重点 ボランティア交流会の開催 | | 市立図書館で活動する全てのボランティア団体が一堂に会し、相互交流や情報交換等を行う場を設ける。 | 「ボランティア交流会」として、年3～4回の頻度で開催している。 | ○ | | | | |
| | | 重点 ボランティアによる市立図書館の資料を活用した調べ学習の支援 | | 市立図書館の施設と資料を活用した総合的な啓発事業をボランティア団体と協働して実施する。 | 主に調べ学習に関する講座を開催する際に、ボランティア団体にも運営の協力を依頼し実施している。 | ○ | | | | |
| (6) 子ども読書活動にかかる新たな取組の研究 | 時代の移り変わりによって生じる新たな読書環境を常に研究し、必要な手法の導入について検討していく。 | 子どもの発達段階に合わせて、読書活動推進につながる取り組みができるよう努める。 | ピピリオバトルは今年度から大学生との協働により12月に開催予定。ブックトークやストーリーテリングについては話し手が限られているため、今後話し手の育成も含めて支援していく必要がある。 | △ | | | | | | |
| 重点 ブックトークの開催【新規】 | | ヤングアダルト世代を対象とした、友達同士で本を薦め合うブックトークの開催を目指す。 | 現時点では、ブックトークの開催に係る働き掛けはできていない。 | × | | | | | | |
| (7) 子ども読書の日、こどもの読書週間における取組 | 国が定める記念日に合わせ、読書に関する啓発を行う。 | 特定の時期に合わせて、読書活動推進に繋がる取組の実施や周知を行う。 | こどもの読書週間に合わせ、パネル展示や特別な読み聞かせ、本のお楽しみ袋の貸出等を実施した。 | ○ | | | | | | |
| (8) 障害のある子どもの読書活動の充実 | 読書バリアフリー法が制定された事により、様々な理由により読書が困難な子どもに対しての対応が求められる事から支援を行う。 | デジー図書、サビエ、LLブック、オーディオブック等既存のツールの利用方法を周知するとともに、UDトークの導入や活用について検討していく。 | 12月を目標に、新たに誰でも利用できるマルチメディアデジーの利用を開始できるよう準備中。 | 実施予定 | | | | | | |
| (9) 多言語本の提供 | 市内に在住する外国籍の家庭や、日本語が読めない子どもに対し様々な言語による対応を行う。 | アメリカンシェルフやクラウドファンディングを活用した多言語絵本を導入し、これらの資料を用いた読み聞かせや貸出を行う。 | 過去2年間、クラウドファンディングにより多言語絵本を購入した。今年度はこれらの資料を活用した大学連携講座を複数開催した。 | ○ | | | | | | |

基本目標2 子どもが読書に親しむ機会を提供できる連携・協力体制の整備

| | | | | | | | | | | |
|---|-------------------|---------------------------|---|--|--|---------------------------------------|--|---|--|--|
| 1 | 家庭、地域、学校等相互の連携・協力 | (1) 地域ボランティアを活用した読書活動の推進 | 地域全体の子どもへ読書活動を推進するために、地域に根ざしたボランティア活動を推進する。 | 各地域において活動するボランティア団体の周知や活動場所の拡充に努める。 | 以前プラムツリー赤池での読み聞かせを実施したが、それ以降は新型コロナウイルスの影響もあり、新たな場所でのボランティア活動は実施されていない。 | × | | | | |
| | | (2) 家庭、地域、学校の連携による読書活動の推進 | 地域全体で子どもの読書を推進するための取り組みを推進する。 | 市立図書館に「子ども読書活動推進会議」を設け、図書館が中心となって市内の各関係機関から意見徴取や情報交換を行う。 | 過去にも新型コロナウイルスの影響で開催が危ぶまれる事もあったが、書面会議やオンラインの活用により毎年開催できている。 | ○ | | | | |
| | | 2 | 図書館間等の連携・協力 | (1) 広域連携による子どもの読書活動にかかる意見交換 | 読書活動にかかる最新情報を得るため、近隣図書館との連携を図る。 | 連携を含む広域図書館長会議等を活用し、現状分析や新たな情報の把握に努める。 | 個別の事業や新型コロナウイルス対策等で各図書館と情報交換を行う事はあるが、事業についての意見交換等は実施していない。 | × | | |
| | | (2) 他公立図書館等との連携 | | 公立図書館だけでなく、大学図書館との相互貸借も推進していく。 | 現在は福山女学園大学と協定を結んで相互貸借を実施している。 | ○ | | | | |